

ボランティアサークル「K'sサポーター「くまのみ」」
2022年4月に学内で立ち上がった「K'sサポーター「くまのみ」」。すべての甲南大生を対象として、より良い学生生活をサポートするボランティアサークルです。リーダーを務める入谷さんからは、立ち上げの経緯や活動への思いを。メンバーの一人、車いすユーザーの上農さんからは、障がいがある当事者としての視点も交えながら、実際に活動して得られた手応えなどを伺いました。

**視覚障がいのある学生の支援をきっかけに
すべての学生をサポートする団体へ**

もともと私は、「好奇心なら誰にも負けない」と言えるほどの「やりたがり」。大学入学後も、興味をもったボランティア活動に次々と参加していました。その一つに、学生の修学支援を行う「YOUステーション」からの依頼で、テキストデータを作成する仕事がありました。視覚障がいのある方のため、教科書をデジタル化する途中段階をお手伝いする作業でした。



全学生を対象に車いすの体験会を開催。

後日、この作業に参加した学生が集められ、学生部から「ボランティアサークルとして団体化しないか」というお話があったときも、まず思ったのは「今すぐやってみよう！」。そして、人をまとめるという初めての経験を積むチャンスととらえ、リーダーに志願しました。
みんなでゼロから活動方針や活動内容を話し合うのは簡単なことではありませんでした。が、次第に打ち解け、活

発に意見を交わせるようになりました。視覚障がいのある方への支援をきっかけに出会ったメンバーですが、今は全学生を対象に活動しています。

誰もが、誰かのヒーローになれる

7月には初めての試みとして、学内で「障がい者スポーツ体験会」を開催。健常者も車いすに乗り、ボッチャに似たスポーツであるベタンクと風船バレーを楽しみました。6月から、車いすユーザーである上農さんが「くまのみ」のメンバーに加わってくれたことも大きかったです。私たちも当事者としての視点をもつことができ、企画も運営もより良いものになりました。

また、私自身、これまで障がいのある人が身近にいなかったのですが、上農さんと親しくなったことで「障がいの有無にかかわらず、みんな同じだ」という思いが強くなりました。
次に考えているのは、秋の摂津祭で模擬店を出すこと。「手話の体験会や謎ときゲーム、お茶会、新入生対象の履修相談会などもやっていこう」と話し合っています。「くまのみ」のSNSアカウントに私が書いたメッセージは「その君、誰かのヒーローになりませんか?」。5年後、10年後、これから先もずっと、「くまのみ」から、たくさんの最高のヒーローが生まれることが私の願いです。

**これまでの経験を、イベントで
生かすことができた喜び**

日頃、自分がサポートを受けているYOUステーションの方から「くまのみに入りませんか」と声をかけてもらったときは、授業も忙しかったので迷いました。でも、自分が経験してきたことを生かせれば……という思いで参加を決意。

僕は生まれつきの脳性まひで、6歳のときから車いすを利用して使っています。15年も使っていると、もう完全に自分の「足」。車いすがあるからこそ、一人で大学にも通えるようになり、ぐんと世界が広がりました。でも街なかには、車いすユーザーにとって不便なことや、危険な場所がまだまだある……そんなことも「くまのみ」で伝えていきたいと考えました。

最初の大仕事「障がい者スポーツ体験会」で、ベタンクと風船バレーを提案したのは僕です。車椅子や歩行の訓練のため病院で過ごしていた子ども時代に、院内学級の体育の授業で経験したことがあり、これならみんな楽しんでめると考えました。

当日は、僕がみんなの前で車いすの操作について説明。障害物を置いてジグザグに走るタイムトライアルも実施したのですが、速く漕ぐコツをアドバイスすると「本当に速くなった」と喜ばれました。自分の経験が生かせる喜びを初めて感じた瞬間でした。

**夢は化学の力で、障がいがある人の
自己肯定感を高めること**

今後は学内の危険な箇所についても声を上げていくなど、活動の幅を広げていきたいと思っています。入学後すぐコロナ禍になったため、1、2年次のころは友人の輪を広げる機会もなく、歯がゆい思いをしています。



ボランティアサークル「K'sサポーター「くまのみ」」の面々。

た。3年次で「くまのみ」に参加したことで多くの人との交流が生まれ、やっと自分の大学生活が本格的に始まったような気がしています。
リーダーの入谷さんは4年次なので、来年は僕らで「くまのみ」を盛り上げていかねばなりません。メンバーをまとめるのが上手な入谷さんには、すぐには追いつけそうもありませんが、人前で話ができるようになったのは自分の成長だと思っています。
甲南大学の人はみんな親切で、実験棟への坂を上るときも多くの人が手伝ってくださることに感謝しています。また、通学時には毎日同じ場所から車いすを押してくださる卒業生の方も。そんな、甲南大学に流れる優しい空気が僕は大好きです。
僕には夢があり、化学の力を用いた車いすの素材改良などを通して、障がいがある人がもっと自由に活動でき、自己肯定感を高められたらいいなと考えています。そのために大学院への進学を希望し、この恵まれた環境の中、夢に向かって学びつつ、「くまのみ」でも長く活動していけたら最高です。

サークルと研究、
どちらもがんばれと、
みんなの優しい空気が
背中を押してくれる

かみの あやと
上農 彩斗さん
理工学部 3年次

必要とされるとき、
いつでも
手を差し伸べられる
人になりたい

【リーダー】
いりたに ひなみ
入谷 日奈美さん
理工学部 4年次